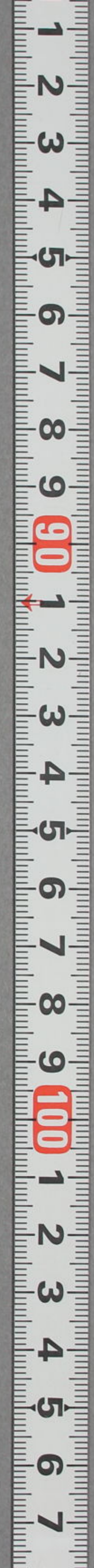


不
審
紙

1遠5
319
4



Handwritten text in Devanagari script, oriented vertically on the left page of the manuscript. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. The characters are somewhat stylized and difficult to decipher precisely, but appear to be a form of address or a title, possibly including the name 'श्री' (Shri) at the top. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be part of a larger word or phrase.

遠門
號 319
卷 4



不審紙卷之四目錄

永觀堂並清水寺緣起

天地血塊

律僧の格式倒

賢愚得失

三十二相八十種好

卑賤の耻辱

不審紙卷之四目錄

Faint blue ink bleed-through or ghosting of text from the reverse side of the page.

不審紙巻四

永観堂并清水寺縁起

永観堂いかにてに孫次立像は、
至せり。永観律師或時深文に及び人物
て後本堂より入り守と通せり。まをれど。
本堂律師のあふまるといふに、
多し。律師とて感涙肝より入る。昔行
治ひけといふ。本堂えり。なり。永観堂
とのま。その時律師い。孫次といふ。末世の流

不審紙巻四

生にぬせよ。ゆかり所。容をれ。ま。か。し
ま。せ。と。則。申。す。許。深。し。の。ひ。て。更。より。頸
ゆ。ぎ。こ。も。く。う。し。又。清。多。れ。親。も。も。急。湯。が
身。代。り。よ。ま。せ。ら。し。頸。落。ろ。と。ご。り。い。ま。見
は。ご。つ。ら。ゆ。ん。よ。ご。び。と。後。向。し。ま。れ。ど。も
有。ご。ら。や。仏。力。あ。く。膏。葉。も。独。参。湯。も。親。ひ
ど。ろ。れ。容。に。ま。ま。愈。因。あ。ら。今。う。件。の。と
し。と。毛。ホ。の。の。と。思。ふ。ふ。水。親。汗。新。敷。乃
を。る。り。天。と。見。地。城。見。た。右。と。見。自。由。自。在

あ。し。て。も。ご。び。ご。ら。く。肩。の。う。入。給。着。あ。る
よ。の。ち。り。水。親。に。来。行。百。の。う。肩。の。急。の
横。向。ま。ご。清。水。の。親。も。も。ご。び。と。う。後。向。り
は。ご。ご。り。身。灸。と。す。入。ま。ふ。ご。り。の。様。は。ま。ご
ち。ろ。ん。き。ご。ご。外。不。り。申。あ。る。べ。し。ぬ。ま。ご
百。日。二。百。日。或。い。子。日。愈。形。く。日。来。し。ご。び。ご
ま。ご。の。立。敷。す。り。の。あ。り。る。う。れ。ま。の。う。あ。あ
し。て。申。物。立。れ。た。う。ぬ。着。あ。る。に。後。向。横。向。よ
て。後。よ。来。詣。の。面。と。見。ま。ひ。ご。ら。の。あ。あ。あ。

何成ル
リテシ

系清がむらりたてせうふいありうの
完結もろべこにうらたき世活とくひ
て竹百年の地居しるうのさてくいと
よきものあり。去ちるる。忠作海産なる
あゝ秘佛も好にえ

天地乃血塊

人れ氣血の一昼夜よ二百六十五度に分
まねとまひ窮止とらとこい病とありと
る。城一人の一面のふて化とやうふいたる

なごころ。今浪着沙と此外。今住あ用の
法財。家て下。吹廻せび。一方へ偏滞とこい
の病とあり。農の耨り耕。美のり。とと収
細して。君よき。うの工い。衣と織。居宅とほり
美財と潤。高の海れ。もの。と山に。あさるひ
山の。とれ。波海。ふ高。農工。高と。れ。と一人
りり。下。百民の法。あり。と。さ。して。家。又。人。乃
助と。ゆ。ら。君。い。民。れ。獻。ど。う。お。の。相。と。潤。う。ひ。く
又。民。と。あ。さ。り。う。入。取。露。雪。お。お。い。て。ま。う。り。路。く。と

只どもあつし此の洞外りて又此と洞とあま
人れ身の外後よむと富高の齋とて
後乃熱と顧み邪利式食り祀とまじ
花よ後一の封トて地の勇利とまじ
どあつる内にて此れ血魂玉乃病とあつるまじ

律傍の格式倒

五戒此内五戒の傍傍差別ちく淫戒とらりぞ
俗の邪淫といふ一の傍の不淫とあつるまじ
それ又戒うへ今時の傍傍持とのまじ

扱一ちれ位お職おけとむる老の作人より後
世にのりて一とて歌目の切らりまはれ
け款おまうてまけけけけけけけけけけけけ
るの用にまうてまうてまうてまうてまうて
葉茶或の葉の粉乃ごとまじ挽葉とまじ
年礼よまじ中へ祀まじと止ねにあつるまじ
まじも合のれまじと役りお種おまじと俗人
まじも人の礼物とまじとまじとまじとまじと
まじとまじとまじとまじとまじとまじと



不
留
神
者
四

四

丁てとうもろび包紙包紙おきして送札と價
 六法十法ごうりれ茶と種りて百法二百法と
 けり包紙包紙の膏をり。仍る長老の
 わりてをひい葉うろちり。かゝる東世ありて
 考ると傍もよりの一山中に郷村よ一人の傍
 傍あり。鑑真和尚の跡とあひひて。又百戒と持
 布衣一合ありて。仏立世後いまだ中及むと
 一ふとと長知識ありとて。徳民の傍傍作
 てとぬと又六戒と授り。のきをこれ郷村

おほし。とこれ村のそれのらげけ傍乃
 教とけりて。又年と念の教生とせは六法目に
 一合ととる。茶の農民指とひくかごう
 借かともよ。古農工高いつともを界よるて
 ちうぬ因。とけて百姓のヲホシタカラと制ド
 て上一人うら下万民にのうりやて。育中の根
 本をり。むき多力とけくして。耘耕の
 又教のらげ。志るも。農夫よ一合い大敵は
 一とけ。山中。ちり。を。杖。席。れ。た。か。く。し。て

田畑とてこゝろよりゆへ所制禁の鉄炮とひり
 りられればはまうとせ農夫がらりは借あそとこれ
 秋田の積麻と遊しめりあそとあそとあそとあそと
 積麻とれに根に俳徊せは又又歌はちり
 きてそれ西の貧民がけくしてきてあそとあそと
 ぬとあそとせぬぬはあそとあそとあそとあそと
 ちりぬ或の病氣と活と絶りあそと又幸といま
 一の冷とせぬこれまこと大歌はちりけ三ヶ
 條田に費とありやうとやうのうとて秋田

の田畑ようちりあそと。む借の世業とほと
 りぬ他の旅と交てあそとびあそとのあそと
 ぬれ費とてうづぬの又戒一食たもあるべ
 盛んに農民よ五戒と授け一食と及へ都と
 ぬの費と仕せと地獄よせと交て理屈鬼
 と名よけ借とせの天救生のく一佛歌
 小歌とちりりくく鬼とく人河鼻獄と障と
 なる。お給一戒も持とぬ万戒もやぐぬ農
 工高とてくの業とては働仲のせぬの民

のはとめ又氏と正務にみらびと安ど御成
 肥し作小平天下ちうしめりしうまらる
 素の政みくしうしめいせもらの世とす
 海もあまのちうりきうしめりしうまらる
 ふうく眠花よまらるるわらうしめりしうまらる
 われおれとて村中れ娘子をたうりくのは
 素信ちやうららげての雨感涙
 賢愚得失
 竹も中位よわらぬをしと字の素あま

愚それよ心けりぬあめあし福どもを字は十七
 の素漢ちうしめりしうまらるる高家よ生れて商業
 ようしめりしうまらるる位れゆはとあはれは
 せはとししは又世に教ぶおのそれしを
 ちうしめりしうまらるるにちうしめりしうまらるる
 めりかちちうしめりしうまらるる字をとがしめりしうまらるる
 と病がけちりてところり山極みそちも魚田に
 もあしめりしうまらるる病があげしうまらるる人
 ちうしめりしうまらるる骨れちうしめりしうまらるるのちうしめりしうまらるる

他くちりうんしをわしきれがしるを
三十年のあはれはるるもえきに母れ入
学こそんとて強飯うして様者酒を
版のひささしりやど喰ひへハムシヨ入るす
おあしひびこの一といえく昨乃語の行
篋れつここのわづれるもはまも移の利動
よい金丸れどとや百端とこれ二天地まき
ゆけきばいんやそれ余のすくもつひ
まよちりうんまのまがらうらり同ふて入

ぶつは先及ぶられ尚及ぶらりちり又を
よ学者博識とよらう人い言の毛れん
ぬのい目にきばとゆる文字も毛のものんぬ
園は南にあひがらくと藤一まき家小
字の悪病ちりるとまひ人おも縋子懸いの
作ありとて毛唐人の類ゆへ毛れらるのに
ゆとけけてるまふいつの比やらん地は毛乃
らんらり時よひのもちく震且もそも人
れ毛地おらんまびくまをれどぬらり



るより。晋書文獻通考をどりて文城
る一人の喟と皮肉くけり。牡丹條も毛は生
らるも。まご何れ毛は山たりも味のよ
さひあ。内外万その書も字字十七字
とぬく。新にこそぬるらんや。あゝ人
のいづく。みこれ仏治もあるんき。さうれ六字乃
外たり。酒落鼻儒書も虚言。山
を仏治も。さうひるすとす。さういふとせよ
とのりあるべし。若魚の三歳は。後見と

知ル。あちり八十にあのくもさうね。紫の徳仏
れ毛は山をぬくも。正治のあちり。ま
文。文盲あちの学び。さう不自中たる。あ
形り。史家は。此あち。正月より。風巾とあけ。胡
鬼の子と突。しじろ。ま。まの戯。は。似。り。と
り。さ。さ。さ。に。困。ら。れ。人。ホ。天
よ。じ。ひ。か。の。づ。う。濁。筆。と。吐。き。清。筆。と。の。ま
し。じ。う。い。と。れ。ち。う。り。或。は。夏。九。十。日。の。ま。に。死
と。捕。し。じ。う。の。も。釣。獲。ず。ま。の。背。燃。と。さ。ぬ

一。又疾は起キ物薬とのじも物起と云を。終
日乃世勢と波のさせぬる人べし。終
と此者の人然るる。物薬のめははまじし
せり。よして。已利平利まぐ。後それより。薬を
養う。り。相薬。よ。目とら。一。青葉。れ。ち。う。ぬ
世ありとて。地と。か。ら。ら。為。田。成。う。こ。我。水。成
る。て。一。し。ん。ん。茶。の。眠。と。さ。ま。一。服。と。す。一。し。る。
腎と劑とのち。ま。ま。は。た。に。か。た。れ。用。り。こ。の。小
一。と。妻。子。と。技。助。一。と。地。と。立。葉。の。多。用。り

り。れ。よ。の。く。ん。ん。その。外。檜。乃。香。と。臭。一。梭。欄。芭
蕉。と。を。あ。は。極。く。も。す。ら。う。ゆ。これ。皆。腎。と。劑
ぬ。に。一。と。香。傍。坊。よ。用。ひ。我。は。は。は。と。笑。り。の
用。り。ゆ。に。あ。は。は。件。り。へ。と。と。て。根。小。腎。薬。と
り。ら。ひ。殺。生。ち。り。る。べ。一。と。り。あ。の。あ。は。は。付。り
と。と。不。及。れ。病。愈。ぐ。こ。の。愚。者。の。人。は。欺。と。れ
智。者。の。人。と。り。く。孫。卑。と。西。と。何。べ。殘。落。危。く。山
峻。と。は。え。い。の。澤。落。こ。の。え。ち。一。と。か。く。西。乃
と。何。よ。ま。く。い。あ。一。と。あ。う。一。と。尺。の。指。と。え。す

は割と中乃と見えへりともいひて
はちり煙管と一指にきせし
りてあつと人きさう嫂のよも
なりてよひ時
なり。さうこそいふごとく
時中よりこれなりと教め
いふ學よその道とありとて
のりつが五百乃戒行も目く
よりも也来とよふもの。三百
威儀も短日あひ表状づら
りもさういへり

とつるべしつらう出れり
杭いおきてうし海し。又び
すりむ。此切杭の傍正ちる
念傷あつ。賢徳あり。賢虚
あり。仙人の通と考ふあり
あり。見えてえぬうら好
麻でもちりく。賢さうと
せん。智と考て思ちり。此
ありへど。あつぬりも
ありへど。あつぬりも

少人。法人の文。是れ。く。も。れ。四。に。つ。き。し。き
 髪。と。う。ろ。ろ。人。と。お。と。差。へ。美。令。の。肌。と
 髪。美。し。る。ち。る。人。一。一。髪。髪。と。農。史。日。備
 髪。も。件。の。色。か。け。一。一。髪。も。い。ほ。い。肌。大。小。の
 ら。ん。髪。も。あ。わ。ら。ん。中。か。の。と。お。人。と
 お。れ。人。の。髪。の。肌。あり。美。令。此。肌。と。い。ふ。も
 髪。の。肌。乃。美。令。似。る。べ。く。り。か。一。一。廣。長。舌
 と。い。ひ。く。舌。ち。る。さ。さ。の。肌。と。へ。で。れ。さ。る
 一。一。縦。散。髪。へ。と。れ。さ。れ。ど。と。く。さ。あ

一。一。虚。云。け。く。お。に。ち。る。り。の。下。平。漢。干
 獨。梅。相。の。肌。の。い。ま。に。す。る。ほ。ど。の。り。か。か。滑
 淨。身。お。皮。層。細。滑。齒。密。お。梵。音。お。緝。色。目
 指。纖。長。お。身。軟。柔。れ。肌。か。あ。く。い。外。に。り
 必。か。と。あ。り。て。一。一。一。一。つ。き。さ。る。ら。る
 一。一。も。外。敷。か。ほ。く。一。一。一。一。か。一。一。
 一。一。と。海。と。て。大。概。と。あ。ら。べ。さ。る。遊。仙。屋。一
 一。一。増。と。あ。り。て。あ。ら。け。あ。さ。と。う。い。し。る。志
 一。一。一。一。媚。と。い。ふ。字。心。目。鼻。れ。容。の。好。と。い。ふ

○不審録卷四
其のりくはせに意氣或いおむれあつたごの云
いといれぬ規う一人のいといく媚と云い善薩の
容をどのでくちらと。愚いといく。やうらり
くりては心性と磨と云えは薄ると佛業
善と思ひりにまな公人と見えなく。解
れあつらまぐく百天の拾遺よりあつた。我お
ごの醜と容のとれ行やど智と云一
うらも仏業善れ仲間入いあつらゆ。九
あうの容れでんうくちら。我おは仏界

天人おは山よおうしきんちんくを
ししりうはたえどばかくついのとて仏法とて
し。佛理杖あつらにわらば。元本聖徳大悟
れ本智と知力あつた。け賢たら。佛仏たは友
も見ぬあつるべし。孔老釈は本心のこれあつるべ
し。眼れはまをわらう。かまのあつら。天
氣へかういあじ。探遊の端髪に雲葉よ
ても付た髪女の癖と垂し。英令ももあつた
肌と磨と云い。孔子の痛と云い

農民の土地商人の賣買の雑言と論ずるを
武士は必成争ひのうまは似るるゆゑに
さかぐり萩の物もちうぬ者なり。うづ
うしやうくまきと葉の空のうづりとも
一分のうぬやどのゆゑと申す。と申す。ど
人の腹中の知る。と申す。天窓は蜂
さへ松魚化の世話いらぬまが。愚
身の上と店卸して見付るに上二人より
下万氏の記まじく皆人るちり。その内

半賤の差別ありと申す。人とは生れ
申後よさのり。さとし生を賤くせらる
を不仕合素く星と申す。人知り。運
り。浅暗とく。と申す。とめ占トと
考へ半道よらう。と申す。外をに
どもの内。色ちりともゆ。と申す。あ
貴人れ助もあるべき。と申す。徳人
の色香細れ。と申す。か。と申す。
ひらひ整とぬく。序よ。と申す。

一八

一八

同心付印しり菊ひ竹り。家父母の細ごよ
う本偶人よあけ人魂とすづこととをせ
らりとも。あまふえふらよいお来まり
つとより折下すぞ。まいたる一人あま
おりのあけ。ごころこころや六板の敷
れ不足せぬづりあらと。あられを岩中の
恥辱とまね一人して清くらと見え
それのちかづにひり代ぬれる高まりて
おえきとれるとぬれあへ。金七拾五

P 信ささり〜ぬぐひまら。とこい人衆よ
てい面目と笑ひはきども。畜生あのおとら
まらとれたらひ〜げるれ價と安。あま
と賣れり〜え竹りに賣切あま。笑人衆
畜生あまおとら〜ら方と。金五月又さる
らと下と息〜生きくと一獨居るとの面
付あ〜惜ひあらり。とこい人界の交
いあら〜いれを閑らり。とこい人界の交
思入〜あらりたあ〜く〜く〜あ〜入〜

心ゆく面々のごひ念と求めんがむおも
歩ゆい様よあつてさうんくしくとあは
ちうぐらゝ。おんおんさうしてゆえれと

不審紙巻口終



張

小
行
女

行
女
行
女

2

